

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和6年 1月 30日
第8号
文責 校長 柳川洋史

黒い爪 ～保護者の方の思い～

海蔵小の皆さんは、保護者の方が働いている様子を想像したことがありますか？

大人が働く世界は、皆さんの想像以上に厳しいものがあります。

得意先や上役との関係から頭を下げなければならなかったり、靴をすり減らして営業に歩いたり、腹立たしい気持ちを抑えて苦情に対応したり、油で作業服や手を汚したり、食事も満足にできないほど忙しかったりして、本当に大変です。

先日ある保護者の方が、職場異動したことを話してくださいました。仕事を変えた事情や新しい業務に苦労していることを前向きに語られる表情とともに、機械作業で黒くなった両手の爪先が垣間見えました。そして自分の子どもへの思い「人に迷惑をかけたら謝ることができる素直さや正直な気持ちをもってほしい」「失敗しても繰り返し頑張れる子であってほしい」「そのために親としてできることをしていきたい」との親としての思いを伺うことができました。

そもそも自分の第一志望の職業に就いている大人はほんの少数です。望まない職場、意にそわない仕事でも、一生懸命頑張っているのが、多くの方の実情だろうと思います。

なぜだと思いませんか？それは、家族の暮らしのためです。

そして、自分の子どもには人並み以上のことをしてやりたいという親心が、下げたくない頭を下げさせ、多少体調が悪くても仕事に向かわせています。「仕事の間、自分の子どもは学校で一生懸命頑張って勉強したり運動したりしている」との思いが、働く励みになっているのではないのでしょうか。

こうした保護者の方の思いに対し、皆さんは自分の学校生活、家での生活に胸を張れますか？わがままを通したり、授業に身が入らなかったりしていませんか？

先日授業参観がありました。皆さんは、どんな姿を見せることができましたか？授業参観の時だけ良い面を見せようとしても、それは難しいですね。

体調や各家庭の事情で、欠席しなければならなかったり参観していただけなかったりした子もいました。その一日、一時間をどのように過ごしていましたか。

では、皆さんに何を伝えたいかということ、授業参観を保護者の方と話し合うきっかけにしてほしいのです。保護者の方の目に自分がどう見えたのか、どのような気持ちで毎日働いているのか、保護者の方の率直な思いを聞き、自分の学校生活、家での生活、大きくは自分の生き方を見つめなおす機会になることを願っています。